

研究・調査報告書

| 分類番号 | 報告書番号 | 担当 |
|---|--------|--------------------------|
| A-180 | 24-005 | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之 |
| 題名 (原題/訳) | | |
| Non-alcoholic beverage consumption among US adults who consume alcohol 米国における飲酒者の非アルコール飲料消費量 | | |
| 執筆者 | | |
| Bowdring MA, McCarthy DM, Fairbairn CE, Prochaska JJ. | | |
| 掲載誌 | | |
| Addiction. 2024 Jun;119(6):1080-1089. doi: 10.1111/add.16452. | | |
| キーワード | | PMID |
| 飲酒者、非アルコール飲料、米国 | | 38403280 |
| 要 旨 | | |
| 背景： ノンアルコールビールやノンアルコールワイン等の非アルコール飲料の人気の増加している。非アルコール飲料が飲酒を緩和するか促進する明らかではない。 | | |
| 方法： 2023年に米国で1906人の飲酒者を対象にオンライン調査を実施し、非アルコール飲料の種類・頻度・量、アルコールの頻度・量、CAGE質問にてアルコール使用障害の有無を評価した。 | | |
| 結果： 飲酒者の28.4%が非アルコール飲料を常用していた。常用者の83.7%がノンアルコール酒を飲んでいて、アルコール使用障害ありはアルコール使用障害なしと比較して飲酒量を減らすために非アルコール飲料を常用する率が高く（調整オッズ比(95%信頼区間)3.54 (2.24-5.58)、68%は非アルコール飲料により飲酒量を減らすことができた。飲酒頻度は非アルコール飲料の頻度が高く（調整オッズ比1.46(1.17-1.83)）・量と正の関連を認めた（ β 0.25 (0.15-0.35)）。 | | |
| 結論： 飲酒者およびアルコール使用障害者は飲酒障害を減らすために非アルコール飲料を常用している。 | | |